
鉾山研究会

ニューズレターNo.8 1

2010年5月31日

- | | | |
|---|-------------------|-------|
| 1 | 総会の報告 | 事務局 |
| 2 | 釜石鉾山跡見学会計画のお知らせ | 村串仁三郎 |
| 3 | 定例研究会の報告 | |
| 4 | 第27回鉾山の映像を観る会のご案内 | 丸山もとこ |
| 5 | 海外鉾山文献読書会のご案内 | 丸山もとこ |
| 6 | 事務局だより | |
| 7 | 夕張資料支援第1次会計報告 | 村串仁三郎 |

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス murakushi@par.odn.ne.jp

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

① 研究報告

10年度の総会は、4月24日13時から法政大学富士見キャンパスで行いました。総会に先立つ研究報告ではまず、金丸哲也会員が「1965年以降の硫化鉱業史」のテーマで、これまでほとんど取り上げられなかった肥料・触媒分野の報告がありました。脱硫等から製造されるようになり、最後は関連業界の支援で撤退した経緯の説明がありました。第2報告は、土井徹平会員「近代鉱山における『飯場』と『友子』の相互関係」のテーマで友子と飯場組合の関係、箱元交際金の運用の実情が、データを使って報告されました。残念だったのは、用意された資料を使い切れないうちま予定時間がきたことです。思うに、友子と飯場の解説に時間を取りすぎたのが原因だと思われます。

第3報告は竹村恒彦会員の「石炭ストーブの話」で、関東に生まれ育った者には想像も付かない北海道の寒さと、それに対処しようとした先駆者達の工夫が説明されました。今回は、図版が予め配付されたので実物を知らない者にも理解しやすかった。

② 総会の議事報告

本田、村田淳、安東、小野崎、竹村、島崎光、川俣、橋本邦、金丸、遠田、久保、村串、杉本、土井、長渡、村田弘、（客員東京産業考古学会馬場永子）（出席者名順不同）

その後、総会に移り、村串会長から09年の活動報告、10年度の活動計画に付いて報告があり、特に10年度の会費を1000円値上げして、不足分は奉願帳方式で対処したい、名簿の作成は個人情報保護法の関係もあり、会員各位が相互に必要なに応じて情報を公開し合うことで解決し、名簿作成は放棄したいと提案がありました。

関連して、川俣事務局員から名簿管理の実態が説明されました。役員は、村串仁三郎会長、久保敦子会計、川俣修壽事務局員、興野善宣会計監査の留任を村串会長が提案しました。ホームページの利用状況、アクセス数と管理者不在の現実が事務局から報告され、それを元に討議されました。既にあるホームページを閉鎖するのは時代の流れに逆行するのではないか等意見が出ましたが、結局積極的に担当したいという申し出もなく閉鎖を事務局から提案しました。村串会長から、雑誌に活動報告を載せれば国会図書館の雑誌記事データベースに採録されるので、それで代替したいと補足的に説明がありました。

（注記。総会後の研究会の際にホームページ閉鎖の決定を撤回することに決定

しました。会長村串。)

最後に久保会計から09年決算が総収入41万5273円、支出41万5273円と報告されましたが、村串会長から実は2万円ほど赤字だったが、久保さんの個人的カンパで辻褄を合わせていると補足説明がありました。10年度の会費は4000円で従来通り雑誌の発行を行う提案があり、採決に移り全議案とも全会一致で可決承認されました。出席者は16人でした。

その他、青木会員の「炭鉱資料の保存活動」に支援をしていこう、遠田委員から鉱石の配付が一部会員にありました。釜石鉱山見学会は7月17、18日の予定で詳細は別項の通りです。担当は村串会長です。(以上文責川俣修壽)

③ 会計報告

平成22年4月19日

鉱山研究会 会計 久保敦子 印

2009年度の決算報告

収入	繰越	47、018 (現金)
		57、755 (口座)
	会費	260、500
		(66名×3000+誌代会員誌代、滞納分納入)
	誌代売上	30、000
	雑収入、カンパ等	20、000
	合計	415、273円
支出	印刷費	278、017
	郵送費(メール代)	54、790
	事務費	24、267
	補助費(会場費、巡検)	33、000
	繰越金	25、199
	合計	415、273円

平成22年4月20日に平成21年度の収支決算書について監査したところ、その内容は適正なものと認めます。 会計監査 興野喜宣 印

2010年度の予算

収入	繰越	25、199
	会費	280、000
		(4000×66名+滞納分収入)
	会誌収入他	50、000

	雑収入	50、000
	合計	405、199円
支出	会誌発行	250、000
	郵送費（通信費）	40、000
	事務費	40、000
	補助費（会場費、巡検）	30、000
	予備費	35、199
	合計	405、199

2 釜石鉱山跡見学会計画のお知らせ

村串仁三郎

4月24日の総会で、釜石鉱山見学計画案の日程が決定されました。

未確定分もありますが、参加者の申込みをお願いします。なお、釜石鉱山坑内への見学は、元釜石鉱山社長の小野崎敏会員の話しでは、おそらく「今回が最後の機会になるだろう」、ということなので、是非、参加されるよう進言しておきます。

5月23日までの参加希望者は、以下のとおりです。

参加予定者一覧

川俣修寿、丸山もところ、小野崎敏、橋本邦子 村田淳、長渡隆一、村田弘一、村串仁三郎、久保敦子、平井陽一、杉本賢治、竹村恒彦、興野喜宣、安東裕世、中山喬央、15名。その他。東京産業考古学会、長野恭彦、首藤郁夫、片山静江、伊藤孝、西山芳一、5名参加、小野崎会員の友人、小出五郎、西成典子2名の予定。計22名。

なお新希望者は、6月10日までに村串まで申し込んで下さい。またこれまでの参加希望者は、同封のハガキで参加を確認して下さい。

日程

7月17日（土）－18日（日）

行き はやて11、東京発、9時15分－新花巻着、11時47分

新幹線新花巻駅発－釜石、現地チャーターバス利用。

（新幹線には乗り遅れのないようご注意ください。）

釜石1時30分着、途中で、釜石鉱山坑内外見学＝約2時間。鉱石採取も可。その後、時間を見て、市郷土資料館を見学、シープラザで海産物のお買い物。夜。

会食前、講話 小野崎敏氏「釜石（旧大橋）鉾山について」
懇親会。

宿泊、安いビジネスホテルを選考中（原則個室、希望者にはツイン部屋を用意、ただしペアを各自確認して下さい）

帰り 9時—4時30分の間のスケジュール。

9時スタート、「鉄の歴史館」の見学（1時間程度）。

歴史館にて講演（40分）、現地研究者森一欽氏「橋野高炉跡について」

その後、昼食をへて、橋野高炉跡の見学（工程2時間程度）

新花巻への帰路、遠野散策。遠野で解散の人も可。

遠野16時15分頃出発。**17時40分までに新花巻着**

やまびこ68、新花巻発、18時11分—東京、21時16分

経費案

新幹線（各自購入のこと）、東京—**新花巻**、約2万円

チャーターバス代、参加人員18人で、一人当たり約3500円（あくまで予定）。

釜石宿泊代、6000円前後？

参加費、5000円前後（宴会費含め）。

3 定例研究会の報告

さる5月14日（金）6時—8時30分に明治大学御茶ノ水キャンパス内研究棟402会議室で、北海道から山田大隆会員を迎えて、今期第1回目の研究会が開かれた。

山田の報告は、一つは、『鉾山研究』誌に報告されていたフライベルクでの産業遺蹟保存国際会議についての内容ですが、おもにドイツにおける鉾山遺蹟の写真を詳しくみせていただくというもの、もう一つは、夕張の近況の報告でした。いずれも大変興味深い報告でした。また、膨大な参考文献を見せていただくことになりました。山田さんには、遠路からの出席いただき、有難う御座いました。

参加者は、山田、安東、竹村、長渡、小野崎、平井、川俣、杉本の各氏でした。

4 第27回鉾山の映像を観る会のご案内 丸山もとこ

釜石見学会の企画が進行中ですので、映像の会も「釜石」を特集します！

釜石ふるさと大使の小野崎敏氏のご協力を得て、映像をいくつか用意できることになりました。併せてわたらせ溪谷鐵道（旧足尾鐵道）の映像を上映いたします。わたらせ溪谷鐵道は、旧足尾鐵道の施設（駅舎、トンネル、橋梁など）37 件が昨年 9 月に国の登録有形文化財に答申されました。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】2010 年 6 月 26 日（土） 開場 13:00, 解散 17:00

【会場】渋谷勤労福祉会館（渋谷区神南 1-19-8）2F 第 4 洋室

【会費】無料

【参考資料】小野崎敏, 古美門佳一郎, 川嶋伸行著『写真集 足尾鐵道の一世紀 難問続出の敷設計画から「わたらせ溪谷鐵道」まで 120 年の物語』新樹社, 2008 年.

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。

※ご意見ご要望のある方は、〈jmrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

5 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えています。そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】Spence, Clark C. *Mining Engineers and the American West: The Lace-Boot Brigade, 1849-1933*. 1970. Reprint. Moscow, Idaho: University of Idaho Press, 1993. 次回は p.212 から

【次回】2010年6月28日（月）15:00～17:00

【会場】GIO オーガニックカフェ（港区港南 1-9-36 アレア品川 2F）

【会費】なし ただしテキストは自分で用意してください

※参加希望者は事前に〈jmrs.dokushokai@gmail.com〉までご連絡ください。

6 事務局だより

① 会員動向

入会者 品田光春（大学講師） 退会者 鈴木孝義

② NPO法人妙見山麓遺蹟調査会からの講座のお知らせ

同会から今年度の活動として、講座「鉾山の歴史」の予定表が送られてきました。すでに終了したものは省きましたが、今後計画されている講座を下記に紹介しておきます。

5月15日（土） 日本刀の焼き入れ・仕上げ

7月17日（土） 明延鉾山の話（地理）

9月18日（土） 明延鉾山の話（削岩機）

10月23日（土） 鉾山の町、聞き取り調査

11月20日（土） 鉾山踏査（多可町）

翌1月15日（土） 鉾山の町、聞き取り調査

3月19日（土） 見学旅行（製鉄遺蹟）

詳しい情報の問い合わせは、NPO法人妙見山麓遺蹟調査会、事務局へ。

住所 〒679-1214 兵庫県多可郡加美区的場294

電話・ファックス、0795-35-1173

[eメール myouken@leto.eonet.ne.jp](mailto:myouken@leto.eonet.ne.jp) URL myouken iseki で検索可。

なお昨年7月18日の講座で話された「明延鉾山の話」中尾一郎氏の『明延鉾山のはなし』（全41頁）の冊子が事務局に送られてきました。希望者は、同会へお問い合わせ下さい。（村串）

③ 事務局員・川俣修寿『サリドマイド事件全史』（緑風出版）出版

本会の古くから会員で事務局を担当し、鉾山研究会の運営を支えていただいている川俣修寿会員が、上記の大著を出版されました。もちろん本書は、鉾山関係の著作ではありませんが、鉾山研究会の事務局を担っていただいている川俣さんの本として出版されたので、あえて皆様がたに報告させていただきます。

かねてからサリドマイド事件についての資料集を出版したいと聞いていましたが、膨大な頁数のものらしいので、出版の困難、むしろ絶望が予

想されていまして。私は、事ある度に圧縮を進言してきましたが、去年も押し迫ったころ、川俣さんから、某出版社からの出版が決ったと知らされて、わが耳を疑いました。

総会の日に刷り見本を見てさらにびっくり。資料集ではなく著作になっていたこと、よその枚数の半分まで圧縮されていて、かつ540頁余の、しかも普通の活字ポイントより小さく、ぎっしり文字が詰まったもので、定価も何と！8820円。それより、売れるかどうかかわからない「サリドマイド事件」の本を出す決断をした出版社に驚きの敬意を寄せざるをえません。

『朝日新聞』の広告に「60年代に睡眠薬サリドマイドを飲んだ妊婦から多数の四肢障害の児が生れた薬害事件。本書は事件の全貌、裁判と和解交渉の内幕を初めて明らかにした歴史的労作」とあります。

出版事情の悪い、否、まともな本が出版されなくなっている絶望的な出版業界で、『サリドマイド事件全史』が出版されたことに異様に興奮しています。

何十年来のライフワークとして暖めてきたこの薬害事件の全貌を解明した川俣さんのジャーナリストとして使命が、数年前に退職されて実現したことを一友人として心から喜びたい。

売れそうにないという川俣さんに代わって、皆さん方をお願いします。地域の公立図書館や大学の図書館で、ぜひこの本を購入するように強く要望して下さい。（村串仁三郎）

7 夕張資料支援第1次会計報告

村串仁三郎

ニューズレターでお願いした夕張支援について皆様方から合計7万円ほどの寄付が寄せられました。内訳は2万円2名、1万円1名、3000円2名、1000円14名でした。第1次支援として青木隆夫さんに送っておきました。さらに、ご寄付をお願いしますので、郵便振替00170-5-416021村串仁三郎「夕張資料保存事業応援団」まで送金くださるようお願い申し上げます。

ちなみに、この寄付活動は、研究会として決定されたというものでなく、この紙面を借りて、村串個人がおこなっている活動です。ご理解をお願いします。

2010年5月30日

訂正のお詫び

ニューズレターNo80の印刷ミスで0が消えて、No8となってしまいました。記してお詫びします。村串。